

Wing of Youth 緊急レポート!!!

日本の農業・食料自給率について探る！

そもそも Wing of Youth とは・・・？

Wing of Youth は読んで字の如く、鳥の翼を羽ばたかせるように、若者の力で世の中に影響を与えようという意味で、日本の次世代リーダー養成塾(<http://leaderjuku.jp/>)6期生数名で2009年11月に設立し、全国の高校生一人ひとりが当事者として現実にある問題への意識を高め、その問題に向かってアクションを起こす「場」・「きっかけ」を提供することを目的に、その第一回目として、「**農業**」を取り上げました。全国の農業従事者、数十人にインタビューをしました。また、そこでの意見を基に、赤松広隆農林水産大臣へもインタビューも行いました。そして、そこから見える、私たち高校生にもできることを考えました。

日本の農業従事者に突撃インタビュー

現在、食料自給率の低さが問題になっているが、その現場にいる当事者、農業従事者はこの問題をどのように捉えているのであろうか？

「今は食べていける」、

「国産にこだわっても十分に足りるから平気だ」

と楽観的に捉える人もいるようだが、その一方で、

「日本食離れやファーストフードかにより自給率が低下してしまった」

「日本の将来が心配」

などのやや悲観的な意見もあった。また、

「一人ひとりが農業や食料自給率についてもっと関心を持つべき」

という私たちにとって耳の痛い話も出た。

この食料自給率の問題の一つとして、**従事者不足**や**従事者の高齢化**が問題となっているようで、従事者側も

「大変深刻な問題であり、この問題解決なくして食料自給率問題の解決なし」さらには、**根本的原因**として

「農業は収入が不安定であることから若者層は魅力を感じていない現状があるので、卓越したセンスや農業にもハローワークを取り入れるなど若者に魅力がある仕事にしなければならぬ」

という、危機意識、そして未来への解決策を模索しているようであった。

農業の収入が安定しない理由の一つに、気温や災害などの**自然環境に左右され**や

すいことが挙げられるが、それについて従事者は

「農業共済という保険の加入」

「品種改良選び等の技術的な面でのカバー」

「加工品を取り入れるなどの複合的な経営」

「収穫量が一定になるように自分の腕を大切にしている」

などの対策を行っているようだ。

また、農業はもともと収益を求めていないとよく言われるが、それについては「先祖から受け継いだ土地を守っているだけ」

「兼業農家は他からの収入に満足している」

などの意見がある一方で、

「趣味とは違うため、儲けなければ意味がない」

「新たな販売所ルートを確保するなど、利益追求型農家も増えてきた」

と答える従事者も。

また、大型機械導入や、法人化をすれば人件費の削減で収益に繋がると唱える人もいるが、これらについては

「抵抗はない」

という意見が多かったが、実際に行っている農業従事者は少なかった。しかし、「実は人件費を削減できない」

「中産地間では大型機械の導入は難しい」

「それほど利点とは考えない」

などの反対意見もあった。

また、去年、民主党に政権交代したことで、何らかの影響があったのかと伺うと、

「特に変わったことはない」

という人もいれば、

「消費者中心の考え方で困る」

「新規農業者への予算が削減されたことで、新規農業従事者の締め出しや資金調達を困難化している」

などの反対意見もあった。そして国全体に対して、

「将来の日本のあるべき姿を見据え、農業がどういう役割を担ってゆくべきか真剣に考え、政策に反映してほしい」

「日本の農業が世界に誇れる産業になるようにすれば、従事者不足や食料自給率の問題を解決できるのでは」

「中山間地支援を充実させてほしい」

「目安箱を設置してほしい」

「後継ぎで農業をやっている人も新規農業従事者と扱ってほしい」
そして、多くの人が

「政治家の方々にも農業を体験して、農家の大変さ・楽しさを理解してほしい」
と痛切に訴えていました。

インタビューを続ける中、私たちはふと疑問に思いました。様々な困難がある中、
農業従事者がずっと農業をやり続けるモチベーションはどこから来るのか？

それは

「収穫の時」

「作った物を食べて、おいしいと言ってもらった時」

「自然と一緒に生活していると感じられた時」

「消費者からメッセージが届いた時」

「努力すれば実を結ぶことが感じられた時」

など様々な場面での「喜び」が農業従事者を突き動かしているのだそうです。そして、農業の明るい未来のため、農業従事者の方々は

「少しでも生活を安定させるために、規模を拡大する」

「儲ける農業に変えていく」

「技術者として残していける経営をしていく」

「子供が調理系学校に進学するので、将来連携して経営してゆく」

「自分の腕を磨きつつ、世代を高齢者から若者に変えてゆく」

など前向きな考えを持ちながら、日々お仕事をしています。

最近、都内でも家庭菜園や都心から離れて農業をやろうとする人が増えているの
で、それについても聞いてみると、

「農業は大変な作業なので、安易な気持ちで始めない方がいい」

という意見がある一方で、

「農業に関心を持って頂けるのは光栄」

「純粋に楽しんだらいい」

など全面的に農業への新規参入者を大歓迎する意見もありました。

また最近では、より多くの人に農業を体験してもらおうと農業体験プログラムを実施している農家が増えているという。農業従事者だけでなく、私たち高校生も一緒になって日本の農業や食料自給率問題について考え直し、行動に移してゆく必要があるのだと痛感しました。

そして最後に農業従事者の方々が私たち高校生に素敵なメッセージを下さいました。

「やりがいのある職業についてほしい」

「何をするにも大変なことはあるから頑張る気持ちは必要」

「自分もまだ若者（21）だと思っている。だけど、農業は大変だというイメージしかないけどほかの仕事だって大変なことである。本当に農業をやってみたいと思う人は、進路をしっかりと選び、将来必要な資格は高校からどんどん取得すると将来活かすことが出来る。自分も高校（農業高校）にいる間で、10以上の資格を取得して、卒業してから難しい試験をやらなくてもすんだ。野菜作りの勉強をしたいならタキイ研究農場附属専門学校（滋賀県）のように厳しいけど、卒業してすぐに現場で活かせるような所に行くのがベストだと思う。農業大学校を卒業しても研修などを何年かやらないといけないけど、すぐに出来るというのは大きいと思う。中途半端な気持ちでは長くは続けることが出来ないと思うので、しっかりした意識を持って前に進むことが大切。」

「夢は実現することができる」

「夢（希望）を持って高校生活を有意義に送ってもらいたい」

「最近は一生涯結婚しない、できない。そんな男女が多すぎます。今の大人の作り上げた社会は、不健全な部分が沢山あります。それにおぼれないように自己確立をしてください。将来に向かいぜひカップルで夢を追ってください」

「失敗を恐れずに何度も挑戦する」

「自分の持っている夢をあきらめず突き進んでほしい」

「自分も数年前までは、皆と同じ農業高校生、偉いことは言えないけど、やりたいことを一生懸命頑張ってください。」

「今できることをやること」

どのお言葉も心に響くものがあります。それぞれの夢に向かって、高校という人生一度きりの時間を大切に、努力を積み重ねることが大事で、そしてそれが日本の明るい未来に繋がるのですね！

ご協力下さった農業従事者の方々、ありがとうございました！
皆さんはこのインタビューで何を感じましたか？

続きまして・・・

農林水産省、赤松大臣に突撃インタビュー

食料の安定供給の確保が任務の一つである**農林水産省**の**赤松広隆大臣**にインタビューしました。赤松大臣は、食料自給率アップの方法として「国内生産物の消費を増やすこと。今の日本の主な消費地は東京や大阪などの大都市なので、消費を増やすためには、大都市に住む人たちの意識を変えなければならぬ」と語った。簡単に自給率を上げられるのか？



「例えば、日本人が1ヶ月に食べる豆腐の量を2丁増やせば、自給率は1%上がるし、他にも朝ご飯に食べるご飯の量を1膳増やせば、これまた1%上がります。さらに最近ではコンビニでも売られている米粉パン(米粉で出来たパン)を1人が1ヶ月に3個食べれば、1%上がります。だから私も週に3個食べることを自分に義務づけていますよ」

おお、赤松大臣も実践していらっしゃるのか！でも確かにこれなら私たちでも簡単に実践できる！

農林水産省は農家の収入安定化のために戸別所得補償制度という、生産額が売上げを上回った時に、その赤字分をカバーしたり、国の指定した作物を作っている農家に対して補助金を出したりする制度を取り入れているのだそうです。「国としては今後、稼げる農業を目指して、戸別所得補償制度をはじめ大きな改革を行い、農業をやりたいと思う人を増やしていきたい。一定の年収を保障する「食える農業」政策を実行していきたい」と赤松大臣。

国の根幹産業としての農業政策の見直しは、赤松大臣をリーダーとした農水省の新規政策が実行されることを信じ、今、私たちはまず自分ができることから始めていこう。

まず最も大事なことは、私たちの世代がもっと農業に関心をもつことではないでしょうか。

赤松大臣は「食べることは人としての原点。作物をつくることの楽しさ、食べる喜びを味わってほしい。世界的に食料が不足する時代がすぐやってきます。だから、若い人たちに農業に関心をもってほしい。若者が農業と触れ合える機会は多く作っていききたい」とのこと。

若い世代が農業に関心をもつための政策にも力を入れてくださるとのこと。大学でも若者が農業に関心を持つプログラムが増えている。オープンキャンパスで農業体験をさせてくれる大学もあるとか。志望大学を選びつつ、農業体験してみるのもいいのでは？

赤松大臣！インタビューのご協力ありがとうございました！

インタビューを終えて・・・

私たちには何ができるのか・・・

普段農業と関わることの少ない私たちでも、

米粉でできた食材を選んで食べてみたり、

農業体験プログラムに参加してみたり、

と、できることはあります！！！！

「自分たちが普段食べている食べ物がどこで作られているのか」など、今までより少しでも農業に関心をもってみるだけで、少しでもこのように考える人が増えるだけで、日本の農業界は確実に明るくなるのです！！！！

**高校生だって、日本を変えるパワーを持っている！
さあ、今日から行動しよう！**

日本の農業や食料自給率について詳しく知りたい方は

農林水産省のホームページ (<http://www.maff.go.jp/index.html>)

FOOD ACTION NIPPON のホームページ (<http://www.syokuryo.jp/index.html>)

をご参照ください

Wing of Youth

パソコンのサイト http://cult.jp/Wing_of_Youth/

携帯のサイト <http://www1.bbq.jp/willows2/i/>

アドレス wing_of_youth@yahoo.co.jp